

奈良県立医科大学附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では、以下の臨床研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

下記の概要についてご確認いただき、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、試料・情報を用いませので、以下の「問合せ先」までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

下記の研究は、奈良県立医科大学医の倫理審査委員会（以下、「倫理審査委員会」と略します）で審査され、奈良県立医科大学学長の許可を得て行います。

① 研究課題名	精神症状を初発とする急性脳炎の予後予測因子の探索		
② 研究期間	実施許可日 から 2023年3月31日		
③ 対象患者	2000年1月から2021年8月までに奈良県立医科大学附属病院で加療を行った急性脳炎患者さん		
④ 対象期間	2000年1月1日 から 2021年8月31日		
⑤ 研究機関の名称	奈良県立医科大学 脳神経内科学講座,		
⑥ 研究責任者	氏名	形岡博史	所属 奈良県立医科大学 脳神経内科
⑦ 使用する試料・情報等	<p>下記の臨床情報を診療録より収集します。</p> <p>臨床所見 年齢、性別、既往歴、精神症状の臨床像、精神症状から治療までの期間、意識状態、神経学的所見、起因ウイルス、起因となった自己免疫、髄液所見（細胞数、蛋白）、頭部MRI・CT所見、脳波所見、臨床経過像（人工呼吸器使用と併発症、全身性痙攣）の有無、治療（ステロイド、抗ウイルス剤）、転帰</p> <p>本研究のために特別に収集する項目 なし</p>		
⑧ 研究の概要	<p>急性脳炎は、起因ウイルスなど病態が多様であります。近年、神経細胞膜抗原に対する自己抗体が検出される自己免疫性脳炎も報告されつつありますが、ウイルス脳炎が疑われた脳炎のうち20%しか起因ウイルスが検出されません。実地臨床においても自己免疫性脳炎は即座に診断できないことが多いです。初発症状に痙攣や脳局所症状を示す場合、早期に脳画像や脳波を行い異常を検出できうる可能性があります。精神症状で発症する脳炎では精神症状のみを呈する期間が数ヶ月に及ぶこともあり、初期対応に遅れることがあります。実地臨床では、精神症状を初発症状とする脳炎は脳画像で異常を示さないこ</p>		

	とがあり、その初期診断は困難であり診断が遅延し転帰が不良となりえます。本研究では当施設で加療を行った脳炎から精神症状を初発とする脳炎を抽出し、起因ウイルスや自己免疫等の病態に繋がる精神症状の臨床像や脳炎の機能・生命予後の因子を分析します。		
⑨ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	年 月 日	
⑩ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。 詳細な方法に関しては以下⑬の問い合わせ先・相談窓口にご連絡ください。		
⑪ 結果の公表	学会や論文等で公表します。個人が特定されることはありません。		
⑫ 個人情報の取扱い	カルテ ID や氏名などの個人情報を研究用 ID に置きかえて使用するため、あなたの個人情報が外部へ漏れることはありません。カルテ ID と研究 ID の対応表は厳重に研究責任者において管理されます。研究の成果は、学会や学術誌などで公表されますが、この場合も、個人が特定される情報が公開されることはありません。		
⑬ 問い合わせ先・相談窓口	奈良県立医科大学附属病院 脳神経内科 担当者：形岡 博史		
	電話	0744-22-3051 (内線：2316)	FAX 0744-29-8860
	Mail	hk55@naramed-u.ac.jp	

上記の研究成果は、European Neurology 電子版に掲載されました。

御協力ありがとうございました。

<論文情報> 掲載雑誌：European Neurology

論文タイトル：Prognostic Factor for Subacute Encephalitis with First-Episode Psychosis.

著者：Hiroshi Kataoka (形岡博史), Nanaura H (七浦仁紀), Kiriyama T (桐山敬生), Kazuma Sugie (杉江和馬)

論文公開日：2022年6月10日 doi: 10.1159/000524975